

持続可能な世界の実現のために地域に根ざした継続的な活動を支援 第14回「TOTO水環境基金」助成団体を決定 ～国内5団体、海外5団体に計2,465万円を助成～

TOTO株式会社(本社:福岡県北九州市、社長:喜多村 円)は、このたび第14回「TOTO水環境基金」の助成団体を決定しました。選考の結果、国内5団体、海外5団体の計10団体に計2,465万円を助成します。これにより、2019年度は、既に活動中の29件とあわせて、合計39件のプロジェクトへ支援を行います。

これまで活動を行った地域の方々からは、「透明できれいな水を飲めるのがうれしい」、「水汲みの負担がなくなって別の仕事に時間が使える」、「漂着ゴミの量に驚き、今後の生活を見直すいい機会になった」などの声が寄せられています。

当基金は助成によって活動を後押しするだけでなく、最寄の事業所のグループ社員が中心となって積極的にボランティア活動に参加する「協働」にも力を入れています。2018年11月には、現在助成中の団体「DEXTE-X(ディクテック)」が活動している葛西海浜公園が「ラムサール条約湿地^(※1)」に登録されました。本プロジェクトには、TOTOグループ社員も継続的に清掃活動に参加しています。水鳥をはじめとするさまざまな生き物の生息地として、その重要性が国際的にも認められたことを地域の方々と共に喜び、この貴重な環境を守っていくために漂着ゴミの問題を解決し、地域活性化を図る活動を今後も支援していきたいと考えています。

TOTOは創立以来「水」に関わる事業を展開してきた企業として、「TOTOグローバル環境ビジョン^(※2)」のもと、地域社会の発展と地球環境の保護に貢献する活動を積極的に推進し、今後も世界で必要とされ続ける会社を目指します。



新規井戸の完成(カンボジア)



地下水の汲み上げに成功(ケニア)



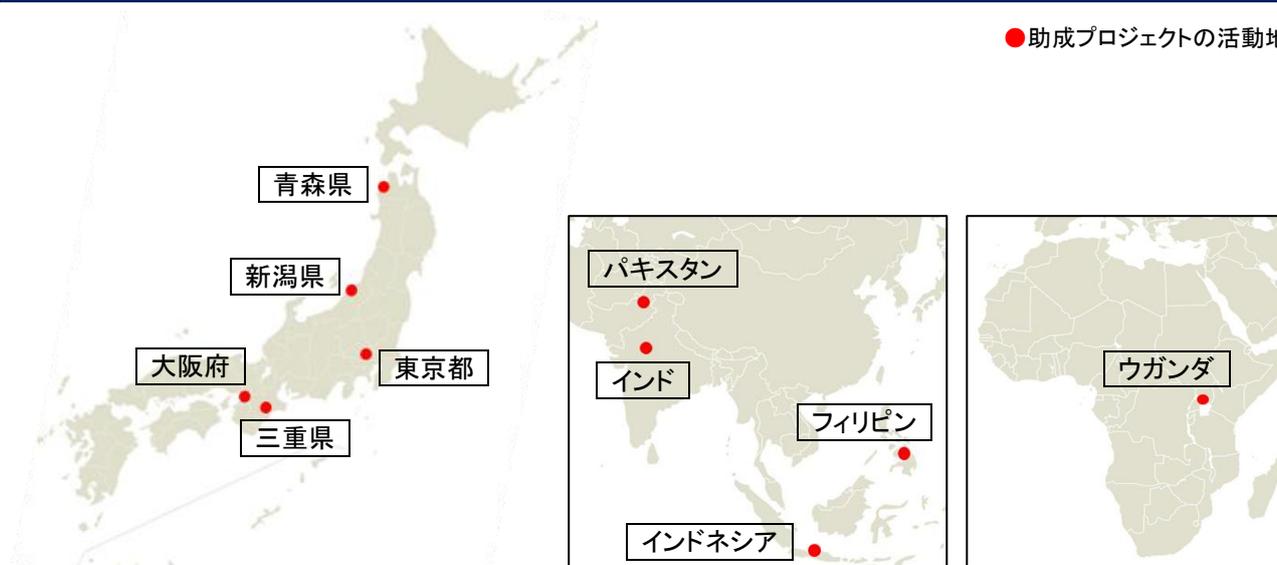
海岸清掃活動(葛西海浜公園西なぎさ)

「TOTO水環境基金」について

TOTOグループは、持続可能な世界の実現のためには、TOTOグループの果たすべき役割である節水技術の追求とともに、地域の事情に精通し、地域を支える団体の活動が欠かせないと考え、2005年度に「TOTO水環境基金」を設立し、水にかかわる環境活動に取り組む団体への助成を続けています。「地域に根ざした活動となりえるか」「一過性の活動ではなく、継続性があるか」を中心に選考を行い、想いを同じくする団体とプロジェクトを実施しています。設立から第14回までの期間にのべ259団体に対して3億3700万円を超える助成を行い、活動地域は40都道府県、15の国と地域に及びます。

第 14 回「TOTO水環境基金」助成プロジェクトの活動地

● 助成プロジェクトの活動地



第 14 回「TOTO水環境基金」助成団体一覧

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2019年度	2020年度	2021年度
1	団体名： 特定非営利活動法人 白神山地を守る会 プロジェクト名： 白神山地におけるブナの種子の栽培および植林活動	青森県	白神山地が世界遺産に登録された 1993 年に、ブナの森の復元・再生活動を実施する団体として設立。白神山地には、世界遺産登録前に伐採等で破壊されたブナ林が散在しており、ブナ林の復元・再生活動に取り組んでいる。 現地での種拾い・春蒔きによる育林作業を実施し、併せて自然保全に対する理解を広めるためのガイドや環境教育活動を行うことにより、この自然遺産を次世代に残していくことを目指す。	○	—	—
2	団体名： 特定非営利活動法人 新潟水辺の会 プロジェクト名： 鳥屋野潟の再生から持続発展・空芯菜筏プロジェクト	新潟県	1987 年に設立し、水辺環境の再生まちづくりや流域連携・各地の水辺活動支援に取り組んでいる。 新潟市の都心にある鳥屋野潟に残る漁法、木舟、景観文化などを守りつつ、「潟と人との関わり」の再生、潟の持続ある発展を図る。空芯菜筏での水耕栽培や加工、活用の確立と子供たちの環境貢献活動との協働、水質改善を含めた潟利用試行などで魅力資源を発掘する。	○	○	○

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2019年度	2020年度	2021年度
3	団体名： 特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所 プロジェクト名： 八王子市上川の里 森と水のつながり実感プロジェクト	東京都	地球温暖化防止と森林再生とが両立する持続可能な地域社会の構築を促していくとともに地域経営の活性化等を目的として2005年に設立。 管理が行き届かず暗い林内になった里山を明るい森へと変え、里山が失った生物多様性と水源かん養機能の回復と維持を目指す。地域住民と都市近郊の市民ボランティアの連携と協力のもとで実施、発展させていく。また、田んぼの維持活動を行い、森と水とのつながりを理解できる人材育成も担う。	○	○	○
4	団体名： 一般社団法人 海っ子の森 プロジェクト名： 漂着ゴミ分別による農業資源への活用と廃棄ゴミの削減	三重県	海の森づくりをテーマに海の環境保護・再生等の活動を通じて、漁業および漁業者への支援、市民活動および環境教育を行い、地域の活性化を図ることを目的として2010年に設立。 参加者全員が、漂着ゴミを資源とゴミに分別する能力を身につけ、海岸や海中にある海のゴミ(海藻・貝殻)を資源化することにより、ゴミを削減し、資源ゴミは農業等への活用によって最後まで使い切って自然に戻す新しい取り組みの環境保全活動に取り組む。	○	○	○
5	団体名： 公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会 プロジェクト名： 地黄湿地を拠点とした、市民参加による湿地生態系の保全	大阪府	大阪府内に残された貴重な湿地や動植物をはぐくむ自然環境を保全するとともに、身近な街の緑化を推進するため、1989年に設立。「みどりの未来をわたしたちの手で」をキャッチフレーズに自然環境・生物多様性の保全、みどり豊かで快適な環境づくりに取り組んでいる。湿地特有の希少生物が生息する地黄湿地において、市民ボランティアによる湿地の整備、生き物のモニタリング継続の仕組みをつくる。また、学術機関と連携した科学的な生物調査を行い、生物多様性豊かな湿地を保全、湿地景観を活かした地域活性化を目指す。	○	○	○

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2019年度	2020年度	2021年度
6	団体名： 特定非営利活動法人 ハロハロ プロジェクト名： 沿岸水環境の持続的保全のための、教育的マングローブ植樹とごみ対策事業	フィリピン共和国	フィリピン全土において、自立支援のための廃材を活用した雑貨製作・流通販売に端を発し、地域を変える「人」と「組織」の育成に取り組むために2012年に設立。JICAや日本国際協力財団の支援のもと、貧困地域の生計向上事業で成果を収め、現在では、教育支援としての幼稚園運営や奨学金制度、啓発活動としての環境美化等に事業を拡大し、課題の解決に取り組んでいる。沿岸環境の悪化により住民の収入源である海藻事業が破綻したアルマー島において、マングローブ植樹および地域住民自らが中心となってゴミを回収・処理を行なっていく持続可能なシステムを構築し、環境保全による生計向上を図る。	○	—	—
7	団体名： 公益財団法人 オイスカ プロジェクト名： ジャワ島の学校を対象とした水環境の改善と環境教育事業	インドネシア共和国	すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界を目指して1961年に設立。36の国と地域に組織を持つ国際NGOで主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開。学校を対象に植林活動や環境教育を実施しているが、トイレ等の水環境設備が不十分な学校も多く、子供たちの教育や衛生に悪影響を及ぼしている。児童や教員に水環境保全に向けた実践的な環境教育を実施・拡充するとともに、小学校においてトイレ・水タンクなどの水環境設備の整備を支援し、子どもたちの衛生および環境教育を改善する。	○	—	—
8	団体名： 認定特定非営利活動法人 難民を助ける会 プロジェクト名： アフガニスタン難民居住地の、水源確保と憩いの場整備事業	パキスタン・イスラム共和国	インドシナ難民を支援するために、政治・思想・宗教に偏らない市民団体として1979年に設立。緊急・人道支援を行なう日本生まれの国際NGOとして、これまでに約60の国や地域で活動を行なっている。1997年には、地雷禁止国際キャンペーンの主要メンバーとしてノーベル平和賞を共同受賞している。アフガニスタン難民居住地において、厳しい環境におかれた難民の人々が安全な水にアクセスできるよう共同の水汲み場を設置し、その周辺に緑化オープンスペースを備えた憩いの場を整備する。	○	—	—

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2019年度	2020年度	2021年度
9	団体名： 認定特定非営利活動法人 ICA文化事業協会 プロジェクト名： インド干ばつ地域での飲料水確保のための井戸再生事業	インド共和国	1970年に任意団体として活動を開始。ICA本部（カナダ）および世界30カ国のメンバー団体と協力し、独自に開発した人間開発手法を応用しながら住民主体の地域開発、復興、貧困削減等の支援活動を実施しており、活動国は22カ国以上にわたる。気候変動の影響により慢性的な干ばつ状態にあるインド北西部において、使用できなくなっている古井戸を再生することによる水の安定供給を図り、日々水汲みの重労働に苦しむ女性や子どもの負担軽減、家庭菜園の実施、衛生面の向上等、水不足による課題を解決する。	○	—	—
10	団体名： 認定特定非営利活動法人 道普請人(みちぶしんびと) プロジェクト名： ビクトリア湖ブッシ島での安全な水へのアクセス向上計画	ウガンダ共和国	「開発途上国の問題は、現地に適したやり方で、そこに住む人々自身で解決する」ことの実現を目指し、2007年に設立。「土の工法」による道づくりを中心に、エンジニアとしての技術開発、現地住民への技術移転、定着化を世界各地で工夫をしながら進めている。活動および技術支援で関与している国は25カ国にわたり、整備した道は総延長156.35kmにおよぶ。大量の生活排水により汚染が問題となっているビクトリア湖の水を飲用せざるを得ない環境にある沿岸部地域において、雨水タンクを設置し、水利用者委員会が施設の維持管理と計画的な運用および衛生的な利用方法の研修を行う。	○	—	—

■ 第14回より新たに助成を開始する団体のご紹介



団体名：特定非営利活動法人 新潟水辺の会
 プロジェクト名：鳥屋野潟の再生から持続発展・空芯菜筏プロジェクト
 活動地域：新潟県
 <活動内容>
 水辺環境の再生まちづくりや流域連携・各地の水辺活動支援に取り組んでいる。新潟市の都心にある鳥屋野潟に残る漁法、木舟、景観文化などを守りつつ、「潟と人との関わり」の再生、潟の持続ある発展を図る。



団体名:公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会
 プロジェクト名:地黄湿地を拠点とした、市民参加による湿地生態系の保全
 活動地域:大阪府

<活動内容>

「みどりの未来をわたしたちの手で」をキャッチフレーズに自然環境・生物多様性の保全、みどり豊かで快適な環境づくりに取り組んでいる。湿地特有の希少生物が生息する地黄湿地において、市民ボランティアによる湿地の整備、生き物のモニタリング継続の仕組みをつくる。



団体名:公益財団法人 オイスカ
 プロジェクト名:ジャワ島の学校を対象とした水環境の改善と環境教育事業
 活動地域:インドネシア共和国

<活動内容>

主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動、学校を拠点にした子どもたちによる植樹活動を実施。児童や教員に水環境保全に向けた実践的な環境教育を実施・拡充するとともに、小学校においてトイレ・水タンクなどの水環境設備の整備を支援し、子どもたちの衛生および環境教育を改善する。

「TOTO水環境基金」ホームページ

<https://jp.toto.com/company/environment/mizukikin/index.htm>

※1:ラムサール条約湿地について(環境省ホームページ)

http://www.env.go.jp/nature/ramsar/conv/About_RamsarSite.html

※2:

TOTOグローバル環境ビジョン

水と地球の、あしたのために。

私たちTOTOグループは、水まわりから環境に貢献するために、「グローバル環境ビジョン」を掲げ、節水や省エネなどさまざまな取り組みを続けています。環境にやさしいものづくりを行い、きれいで快適な暮らしを世界に届け、人とのつながりを大切に活動してまいります。水と地球の、あしたのために。これからも、持続可能な社会を目指して、TOTOグループ全員の力で、実現していきます。

[URL] <https://jp.toto.com/company/csr/vision/index.htm>

